

編集後記：読者の中には、米国ボルダーを訪れたことがある方も少なくないのではないのでしょうか。気象の研究をしていればまず知らない人はいない、米国海洋大気庁 (NOAA) 及び米国大気研究センター (NCAR) の本拠地だからです。筆者は巡り合わせでこの半年間、家族とともにボルダーに滞在する機会を得ました。ロッキー山脈の迫力ある頂きを眺めながら筆を進めています。そこでこの場を借りて、ボルダーあるある話を皆さまと共有できればと思います。

#### ●ロッキー山脈ならではのスポーツ

ボルダーといえど何と言ってもロッキー山脈に見下ろされる大自然。山のスポーツが盛んです。大人から子供まで楽しめるスポーツがロッククライミングです。夏休みに入り、娘のためにサマーキャンプを探していると、ロッククライミングのコースがたくさん目に付きますが、実はマリンスポーツのコースもあります。しかし、海のないコロラド州なので、開催場所は貯水池 (reservoir) になります。他にも海がない州ならではの風景として、砂場にネットを張ったコートが運動広場に設置されているのが目に付きますが、これはビーチバレーを楽しむために用意された施設です。そして忘れてはいけないのがマラソン。標高2000 m 近くある高地でトレーニングするために世界中のマラソン選手が訪れることは有名ですが、そのためマラソンは地元にも根付いていて、5月の最終月曜日のメモリアルデーには町を挙げての一大マラソン大会「Bolder Boulder」が行われます。年齢国籍問わず誰でも気軽に参加可能で、ジョギング用のベビーカーに赤ん坊を乗せて走るお母さんもいます。多くの車道を封鎖して、市民が約10 km の距離をお祭り騒ぎで通り

過ぎます。私たちはコース脇に住む知り合いの家にお邪魔して、選手に放水しながら応援を楽しみました。次に機会があれば是非ランナーとして参加してみたいと思っています。

#### ●低肥満率

肥満が社会問題となっている米国の中でボルダーは肥満率が低い街として有名で、市民もそれに誇りを持っています。私が知り合った方々もスレンダーな方ばかりです。娘が通う小学校では間食のためのスナックを家から持参しますが、お友達が持ってくるのは人参スティックだったりセロリだったりするそうです。

#### ●山間部ならではの交通ルール

山の天気はドラスティックに変化します。晴天から急に雷雨に見舞われたり霧に包まれて視界を失ったりは日常茶飯事です。コロラド州の運転免許試験の教科書には mountain driving の節が用意されており、そういった事態への対処が事細かに述べられています。山道の上りと下りでは運転の仕方が異なります。大型の動物（特に鹿）が飛び出す事故も多いですが、教科書では、動物を避けて覚悟して直進せよと指示されています。

#### ●地ビール

実はボルダーは知る人ぞ知る美味しい地ビールの街。山の中腹の NCAR Mesa Laboratory から麓に下りてすぐのモールや、NCAR Center Green の道を挟んで向かいには、その場で醸造したビールを振舞ってくれる素晴らしい醸造所 (Brewery) がありますので、NCAR へ出張された際には是非立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

(今田由紀子)